

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

試行錯誤／二本松市立川崎幼稚園

「なぜ?」「どうして?」と探求を楽しみ「科学する心」が育まれている子どもたちには、自分たちで問題を解決しようとする意欲や態度が養われています。

この事例の子どもたちは、大事に育てているヒマワリを毛虫から守るために、毛虫を退治するのではなく、「毛虫を避ける」方法で問題を解決しようとし、試行錯誤をしています。



○ 毛虫からヒマワリを守れ! / 5歳児

✦ 場面1：種を植える（5月上旬）

震災以来毎年植え続けているヒマワリ。その他の花も大切に育て、年度末に、花の種が5歳児から4歳児へと引き継がれている。今年の5歳児も、譲り受けた花の種をポットに植える。同じように育ててみたいと期待感をもって、昨年度の花や花壇の様子を話している。

✦ 場面2：毛虫発見

5日後、ヒマワリの芽が出ていることに気付く。ヒマワリが次々に発芽し双葉が揃った頃、ポットの上に毛虫がいるのを見つける。よく観る。

「葉っぱを食べている!」「何で葉っぱを食べるの?」「どうしてヒマワリの葉っぱだけ?」「鳥も食べるよ!」「家のハムスターもヒマワリの種を食べるよ!」「毛虫のうんち!?!」「緑だ」「毛虫って何になるの?何の赤ちゃん?」

✦ 場面3：ヒマワリを守るう「けむしよけそうち」

葉っぱを食べられてしまうことに気付いた子どもたち数名は、「ビニールでかぶせちゃえばいいんだよ!」「棒が必要だ。棒を曲げてさ…」「何で作る?物置から使える物を探してみよう!」と話し合い、毛虫除け装置を作り始める。

「押さえていないと切れないよ・・・」「力いるから交代でやろう!」「空気穴も空けないとね!」などとやりとりをしながら作り、できた「けむしよけそうち」をみんなに見てもらう。すると友達が、「これで大丈夫?」「穴から入りそう…」「お水、あげられないよ?」「中が見えないよ!」と思ったことを言う。



考察

一から作り始めるうえで、初めて棒を切る、倒れないようにガムテープで固定する…どの作業も知恵を出し合い一緒に作る友達を必要とし、自然と協同的な活動に広がっていった。最初は数人で始めた毛虫除け装置に、他児も集まって見守りながら、もっと工夫できるのではないかと考えるようになる。

✦ 場面4：ヒマワリを守ろう「けむしよけそうち2号」

Hちゃんが週末考えた作戦を、「(周りを)グルッと囲んだら どう?」と皆に提案すると、「いいね、中が見える!」と言う。そして、(保育室で飼っているイモリの様子を思い浮かべて)「ビニールなら毛虫が ツルって 登れないし!」「ここに 落ちると出られないんだよね」「イモリも 水槽から出られないもんね」と話したり、(ジュース屋さんのペットボトルを見て)「棒じゃ倒れちゃうよ…?」「ペットボトル、使ったら?」と話したりして、作り完成する。



✦ 場面5：ヒマワリを守ろう 風除け

強風、さすがにペットボトルでも倒れてしまいそうだと気付いた子どもたちは、早速相談をする。

「テープで止めちゃおう!」「風が強いから倒れちゃうよ!」「よし!風除けだ!風がこないように 壁になるう!」と話し、ヒマワリを守る。



✦ 考察

ビオトープの一角で上がれない毛虫や保育室のイモリの様子を共有しているため、ビニールならば同じように滑って上がれないと考えた。棒の代わりに提案されたペットボトルも、ジュース屋さん遊びに使われている物からの発想であり、子どもたちが普段の遊びや生活の中から必要とするものを探し出していることがよく分かる。

「ヒマワリを守ろう」とする気持ちは、強風からも守ろうとする行動に結び付いた。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」